

天正大地震

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

天正大地震(てんしょうおおじしん)は、天正13年11月29日(1586年1月18日)に発生した大地震である。

『東寺執行日記』、『多聞院日記』など多くの古文書に記録が見られ、『梵舜日記』には約12日間にわたる余震が記録されている^[1]。

目次

- 1 概要
- 2 震源域
- 3 被害
- 4 津波
 - 4.1 伊勢湾
 - 4.2 若狭湾
- 5 関連項目
- 6 脚注

概要

この地震は天正地震、白山地震とも呼ばれ、震源地は現在の岐阜県北西部、マグニチュードは7.9 - 8.1と推定されているが、震源域も未確定であるため精度は高くない。

当時、三河にいた松平家忠の日記によると、地震は亥刻(22時頃)に発生し翌日の丑刻(2時頃)にも大規模な余震が発生。その後も余震は続き、翌月23日まで一日を除いて地震があったことが記載されている。

震源域

近畿から東海、北陸にかけての広い範囲、現在の福井県、石川県、愛知県、岐阜県、富山県、滋賀県、京都府、奈良県(越中、加賀、越前、飛騨、美濃、尾張、伊勢、近江、若狭、山城、大和)に相当する地域にまたがって甚大な被害を及ぼしたと伝えられる。また阿波でも地割れの被害が生じており、被害の範囲は1891年の濃尾地震をも上回る広大なものであった。そのことなどからこの地震は複数の断層がほぼ同時に動いたものと推定されている^[2]。

震央は飛騨の白川断層とする説、伊勢湾とする説、2つの地震が連動したとする説などがあり^[3]、一方では現在の岐阜県の阿寺断層とする説もある^[4]。

被害

琵琶湖では、下坂浜千軒遺跡となる現長浜市の集落が液状化現象により、水没^[5]。

越中国では木舟城が地震で倒壊、城主前田秀継夫妻など多数が死亡した。前田秀継は前田利春の子で前田利家の弟である。

また、飛騨国帰雲城は帰雲山の山崩れによって埋没、城主内ヶ島氏理とその一族は全員死亡し、内ヶ島氏は滅亡した。また、周辺の集落数百戸も同時に埋没の被害に遭い、多くの犠牲者を出すこととなった。

郡上では、奥明方(現郡上市明宝)の水沢上の金山、また集落(当時6、70軒)が一瞬で、崩壊し、辺り一面の大池となったといわれる。

その他、美濃国では大垣城が全壊焼失、近江国では長浜城が全壊し、城主山内一豊の息女与祢姫、家老の乾和信夫妻が死亡するなど、近畿、東海、北陸にかけての各地で甚大な被害が出た^[6]。

京都では東寺の講堂、灌頂院が破損、三十三間堂では仏像600体が倒れた^[7]。

尾張国では昭和63年(1988年)度実施された五条川河川改修に伴う清洲城下の発掘調査で、天正大地震による可能性の高い液状化の痕跡が発見されている。天正14年(1586年)に織田信雄によって行われた清洲城の大改修は、この地震が契機だった可能性が高いと考察された^[8]。

津波

伊勢湾

伊勢湾に津波があったとされる。加路戸、駒江、篠橋、森島、符丁田、中島などは地盤沈下したところに津波が襲来し水没した。善田は泥海と化した。伊勢湾岸では地震とともに海水があふれ溺死者を出した^{[9][10]}。

若狭湾

『兼見卿記』には丹後、若狭、越前など若狭湾周辺に津波があり、家が流され多くの死者を出したことが記され、『フロイス日本史』にも若狭湾と思われる場所が山ほどの津波に襲われた記録があり、日本海に震源域が伸びていた可能性もある^[11]。

関連項目

- 帰雲城
- 功名が辻

脚注

- ↑ 震災予防調査会編『大日本地震史料』上巻、丸善、1904年
- ↑ 中村一明、守屋以智雄、松田時彦『地震と火山の国』岩波書店、1987年
- ↑ 国立天文台『理科年表』丸善
- ↑ 岐阜・阿寺断層帯で地震発生確率上昇 東日本大震災の影響で (http://sankei.jp.msn.com/science/news/110910/scn11091006530000-n1.htm) 産経新聞 2011年9月10日閲覧
- ↑ 朝日新聞2010年6月5日
- ↑ 寒川旭『地震の日本史』中公新書、2007年
- ↑ 宇津徳治、嶋悦三、吉井敏尅、山科健一郎『地震の事典』朝倉書店、2001年
- ↑ 森勇一・鈴木正貴 (1989年3月24日). “愛知県清洲城下町遺跡における地震痕の発見とその意義 (http://topo.earth.chiba-u.jp/afr/backnumber/No7/7%E5%8F%B708%E6%A3%AE%E3%81%BB%E3%81%8B.pdf) (PDF)”. *活断層研究* *7*. *p.* 63 - *p.* 69 1989. 2011年9月12日閲覧。
- ↑ 東京大学地震研究所『日本地震史料 続補遺』日本電気協会、1993年
- ↑ 『長島町史』1978年
- ↑ 「兼見卿記」『大日本史料』第11編23冊



この「天正大地震」は、日本の歴史に関連した書きかけ項目です。この記事を加筆・訂正 (http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E5%A4%A9%E6%AD%A3%E5%A4%A7%E5%9C%B0%E9%9C%87&action=edit) などして下さる協力者を求めています (P:歴史/P:歴史学/PJ日本史)。

「http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E5%A4%A9%E6%AD%A3%E5%A4%A7%E5%9C%B0%E9%9C%87&oldid=39610037」より作成

カテゴリ: 日本の地震 | 安土桃山時代の事件 | 1586年

- 最終更新 2011年10月14日 (金) 17:23 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
- テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。